

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	筑波大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ツクバダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F108110101423
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	茨城県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	博士前期インターンシップⅠ、Ⅱ 博士後期インターンシップⅠ、Ⅱ
	学部・研究科等名	ライフイノベーション学位プログラム
	担当教職員名・役職	平川 秀彦、許 東洙、高橋真哉
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	11
	受入企業等数	4
	受入企業等名	国立研究開発法人産業技術総合研究所,国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構,アステラス製薬株式会社,筑波大学
	インターンシップの分類	1.長期（概ね1か月以上）インターンシップ 2.有給インターンシップ 4.国際機関でのインターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の研究者と協働できる能力、専門分野外での課題設定能力を養い、社会人としての実践力を修得・拡充する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	4.当該インターンシップは、必修科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学院 修士1年
		大学院 修士2年
		大学院 博士1年
大学院 博士2年		
大学院 博士3年		

	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学院 1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	博士前期インターンシップⅠ、Ⅱ：1.0単位,1・2年次を対象,履修方法：通年応談 博士後期インターンシップⅠ、Ⅱ：1.0単位,1-3年次を対象,履修方法：通年随時
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	(1)自身のキャリアに対するイメージの明確化 (2)インターンシップのゴールと成果の設定 (3)受け入れ先の調査 (4)受け入れ先担当者との議論に基づく実施計画の策定(5)インターンシップの計画を明確にする申請書の作成
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実施内容の報告	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップに係る一連の手続きをスタートさせる前に指導教員と十分に話し合うこと。実習・実験の科目であり、見学や講義を主とする場合は実施時間不足として判断することがある。申請書は遅くとも実施2週間前には提出すること。申請書においては実施内容に関する背景および目的を明確に述べること。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している

	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	実施前：学生から申請書を提出、インターンシップ先に実施許可及び評価願いに送付 実施後：学生からレポートを提出、インターンシップ先から評価表を受取、レポート及び評価表に基づいて成績評価
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	原則として1週間から1ヶ月間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	原則として1週間から1ヶ月間
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	受入企業も協力してプログラムを設計し、評価シートも作成し測定に活用している。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	筑波大学
	担当部署名	ライフイノベーション学位プログラム
	担当者役職名	一般職員
	担当者氏名	岸 由美
	電話番号	029-853-3998
	メールアドレス	life-innov@un.tsukuba.ac.jp